



母の教え

(財) 地方公務員等ライフプラン協会 鎌田英幸



人間を造る土台は、先天的には遺伝子で、後天的には教育や人格形成上の体験と言ったもののだろうが、前者は自分ではどうしようもない。私の場合、後者については、青年期の読書の影響が大きいように思えるが、還暦も間近となった今更ながら、幼少期に母から言われたことが結構影響しているようにも思える。母親からの教えは、特に男子の場合には、DNAの相似性とも相まって強く心に残るのかもしれない。

母は、よく諺（ことわざ）や格言を用いて、私を教え諭そうとした。以下は、思い出す言の葉の数々である。

「少年老い易く学成り難し 一寸の光陰軽んずべからず」、小学校から帰って家で少年画報などの漫画を読んでいると、この言葉が飛んできた。如何に勉強嫌いの私でも、一通りだらだらすると今日学んだことや宿題のことが気になったりはしたもののだが、さて勉強にでも取りかかろうかと小さな決心をした矢先にこれを言われてしまうと、やる気を半分くらい削がれた気持ちになり、ひどくがっかりしたものだ。

「為せば成る 為さねば成らぬ 何事も 成らぬは人の為さぬなりけり」、これも怠ける心を戒め、努力を求める言葉である。母も誰かに言われて育ったのかもしれないが、この年になった私でさえも、なかなか完璧な実践は難しいと感じるところがある。しかし、公務員としてやるべきことは一応やったのではないかと顧みることができるのは、この薫陶のおかげか？

「嘘つきは泥棒の始まり」、姑息な言い逃れなど、この一言で粉碎される。正直は人間のあるべき姿だ。端納的な決めつけだが、倫理の基本だと思いつくと思う。

「大器は晩成す」、心温まる、慰めと希望の言葉だ。父兄面談から帰ってきて、何を言われたかと気にする私に、こんな言葉をかけてくれた。想えば、母は大らかな人柄だった（体格も大らかだった）。この年の私

でも、更に完成に向かおうという勇気さえ湧いてくる。

「能ある鷹は爪を隠す」、認識が幼稚な私には理解が行き届かなかった諺である。これはむしろ成人してからの社会生活に重要な教えだったと思う。この意味が我が身に十分浸透していればと反省しきりである。

「情けは人のためならず」、社会生活に役立つ先人の知恵に他ならない。最近、早起きになった私は、我が家の前の小径で落ち葉掃除をしているのだが、近隣のおばさま方から感謝されて色々な頂き物をするようになった。なるほどの金言である。

「ケセラセラ」、これは諺ではないが、母がにこやかに言っていた記憶が残っている。勿論、計画性は大事だが、人生なるようになる、この達観があらゆる煩わしさから人間を解放してくれるのではないだろうか。

長じて、私は森有正の著作を読み、人類の体験が集約・昇華されたものを「経験」と定義する思想を知った。同じ考えで、母が諺を用いたのかと、今は思う。

そんな母のDNAは、私を経由して、娘に受け継がれているようだ。よく笑う明るい娘だが、私の身だしなみや生活態度については、さかんに教育的指導をしてくる。私は理屈をこねて反論するのだが、娘は最後には決まってこう言う、「そんなことしていると、お母さんに嫌われるよ！」と。

う～む、これもまた無視できない説得力を持っている。我が母のDNAは「理」から「情」へと変貌しているようだ。

